

財団法人 千葉県教育振興財団(千葉県文化財センター) 研究紀要一覧

平成 21 年 12 月

第～号	発行年月	タイトル
1	昭和 51 年 3 月	概説 ―房総における先土器文化の概要と変遷―
		ポイントの発達とその意義
		先土器時代遺跡の構造について ―特に木苧峠遺跡を中心として―
2	昭和 52 年 3 月	考古学から見た房総文化の解明 2 縄文時代 中村恵次氏追悼記念号
		縄文時代集落の成立と展開 ―国分谷周辺区域における前期、中期を中心として―
		関東地方における縄文時代中期末の土器群
		房総における縄文中期末の石器群について
		故中村恵次氏略年譜
		同業績目録
3	昭和 53 年 3 月	―考古学から見た房総文化― 3 弥生時代
		房総における弥生文化の摂取とその波及について
4	昭和 54 年 3 月	考古学から見た房総文化 ―古墳時代― (墓制の基礎資料)
5	昭和 55 年 3 月	考古学から見た房総文化 ―歴史時代―
		I 下総国を中心とした歴史時代の土器について
		II 発掘された中世城郭について
6	昭和 56 年 3 月	自然科学の手法による遺跡、遺物の研究 1 ―概論―
		〔研究ノート〕貝塚産魚目類の解析と課題

7	昭和 57 年 3 月	自然科学の手法による遺跡、遺物の研究 2 —千葉県における製鉄遺跡の研究—
		特論 千葉県下遺跡出土の製鉄関係遺物の分析調査
		〔研究ノート〕 いわゆる「柄鏡形住居址」について
		〔研究ノート〕 古代東国のカマド
8	昭和 59 年 3 月	自然科学の手法による遺跡、遺物の研究 3 —土器胎土分析の基礎的研究—
		〔研究ノート〕 北総台地における沈線文土器群の出現
		〔研究ノート〕 房総の石製模造品
9	昭和 60 年 3 月	自然科学の手法による遺跡、遺物の研究 4 —古環境の復原—
		〔研究ノート〕 房総半島における縄文時代生産活動の様相—縄文時代中期から後期前半における生産用具組成の在り方—
		〔研究ノート〕 後期古墳時代有吉遺跡の研究
10	昭和 61 年 3 月	—千葉県文化財センター10周年記念論集—
		新東京国際空港 No. 12 遺跡の有舌尖頭器をめぐって
		浅鉢形土器出現の背景 —飯山満東遺跡を中心として—
		阿玉台式土器前半期の一様相 —常磐道柏地区の調査成果から—
		微隆起線文土器群の変遷と分布 —加曾利EIV式期に認められる微隆起線文土器について—
		水洗選別法による遺物採集の効果 —魚類遺骸を中心に—
		関東地方における弥生時代中期前半の地域相
		『北関東系土器』の様相と性格
		印旛沼南部地域における後期弥生集落の一形態 —八千代市権現後・ヲサル山遺跡の分析—
		東国後期古墳分析の一視点 —鉄鍬から見た千葉市生実・椎名崎古墳群—
		千葉市大北遺跡の検討 —律令制下東国の一様相—

10	昭和 61 年 3 月	下総国相馬郡正倉跡の再検討
		8 世紀における下総の国司について
		下総国印旛郡村神郷とその故地
		房総をめぐる奈良・平安時代土器生産体制の展開に関する諸問題
		関東型式宝篋印塔の研究
		中国製古銭の分析研究
		戦国時代末期の城郭から見た権力構造 —下総・原氏を中心として—
		千葉県考古学史資料目録稿 —明治期—
11	昭和 62 年 3 月	自然科学の手法による遺跡、遺物の研究 5 —先土器時代の石器石材の研究—
12	平成 2 年 10 月	生産遺跡の研究 1 —瓦—
		第 1 編 上総における瓦生産の一例 —九十九坊廃寺跡出土瓦を中心として—
		第 2 編 「瓦と建物の相克」 試論 —大塚前遺跡出土瓦の分析—
13	平成 4 年 3 月	生産遺跡の研究 2 —玉—
14	平成 5 年 12 月	生産遺跡の研究 3 —須恵器—
		〔研究ノート〕 出土遺物脱塩処理法再検討のための実験研究
		〔研究ノート〕 西南日本における細石刃文化の起源と展開
		〔研究ノート〕 村田川流域の 6～7 世紀の土師器の再検討—千葉市榎作遺跡の分析を中心に—
15	平成 6 年 3 月	生産遺跡の研究 4 —埴輪—
16	平成 7 年 1 月	—財団法人 千葉県文化財センター 20 周年記念論集—
		下総型石刃再生技法の提唱
		沼南町石揚遺跡出土の花積下層式土器

16	平成7年1月	再び土製?状耳飾について
		下総台地における加曽利EⅢ式期の諸問題 —集落の成立に関する予察を中心に—
		千葉県における弥生時代後期土器の地域性について
		螺旋状鉄釧小考 —東日本における腕輪の意味—
		[群小区画墓]の終焉期(3) —古墳と土壙墓—
		房総の石製模造品製作 —白玉の製作について—
		房総半島の古代集落遺跡に見る人口動態
		カマド再考
		古代東国村落と集落遺跡 —下総国印旛村神郷の様相—
		中世城館の構造とその変遷 —千葉県内の発掘成果を通して—
		房総における中世城郭の築城から廃城 —印西町小林城跡の発掘調査から—
		東国における中世墓地の諸相 —房総の事例を中心に—
		石塔婆としての宝篋印塔について
		貝塚確認調査の現状と課題 —主として県内主要貝塚調査の成果から—
		千葉県内貝塚数から見た地名表
		もう一つの貝塚研究史
房総古代駅路研究史		
埋蔵文化財普及事業の意義と役割 —財団法人千葉県文化財センターの普及事業を通じて—		
なぜコンピュータなのか		
17	平成8年9月	県内の青銅製品の集成と分析
18	平成9年9月	古代仏教遺跡の諸問題 —重要遺跡確認調査の成果と課題 1—

19	平成 11 年 3 月	貝塚出土資料の分析 —重要遺跡確認調査の成果と課題 2—
20	平成 12 年 3 月	中近世城館跡の構造と特質 —重要遺跡確認調査の成果と課題 3—
21	平成 12 年 9 月	房総地方に置ける前期古墳の展開 —重要遺跡確認調査の成果と課題 4—
22	平成 13 年 9 月	尖頭器石器群の研究 —各時代における諸問題 1—
23	平成 14 年 9 月	房総における原始古代の農耕 —各時代における諸問題 2—
24	平成 17 年 3 月	—財団法人 千葉県文化財センター30 周年記念論集—
		房総半島における石刃石器群と槍先型石器群
		縄文時代後・晩期集落における中央窪地の形成について —千葉県内の事例を中心に—
		古鬼怒湾南岸地域における縄文時代後晩期集落の立地と貝層分布
		縄文時代の通年定住型集落を支えた食 —植物食の発達と貝・小魚の通年利用—
		成田空港周辺の加曾利 B 式土器
		千葉県における縄文後期の釣手土器について
		壺型埴輪と東関東の前期古墳 —土師器とは異なる壺型埴輪の周知とその系譜—
		古代の上総北東部 —古墳時代後期からの集落と古墳の動向—
		房総における竈導入の頃の様相 —竈と貯蔵穴 その 2—
		墨書土器から見た古代房総の郷と村と集落・家族
		市原条理に関する基礎的研究
		古代土器の打ち欠き・穿孔 —千葉県印西市鳴神山遺跡群出土土器の検討—
		房総半島における古代精錬遺跡
千葉県内出土の発火具の集成と様相		
房総中世城館の発展過程		

24	平成 17 年 3 月	中世房総における陶磁器類の流通・消費動向
		茂原市橘樹神社境内地出土の経塚遺物
		成田市西ノ下遺跡発見の管打式銃部品について
		史跡荒屋敷貝塚の位置付け
		出土品等の活用を考える 一次世代とつながる考古学のために(覚書)ー
		「土器っと古代“宅配便”」を使った授業について
		普及啓発活動の1つの試み ー考古資料のペーパークラフト化ー
25	平成 18 年 3 月	房総における郡衛遺跡の諸問題 ー下総国を中心としてー
26	平成 21 年 11 月	房総における縄文時代の非在地系土器にについて ー早期から中期を中心としてー